

没後50年“コダーイ”とハンガリーの音楽

プログラム

今年にはハンガリーの大作曲家コダーイの没後50年に当たります。そこで今日はコダーイを中心にハンガリー出身の作曲家達の作品を集めてお聴きいただきます。まずコダーイの前に、共にハンガリーで生まれながら、後にウィーンでオペレッタ作曲家として成功するカールマーンとレハールの作品から。1915年にウィーンで初演された「チャールダーシュの女王」はウィンナ・ワルツとハンガリーの民族舞曲チャールダーシュを巧みに取り入れたカールマーンの代表作です。レハールはカールマーンに比べるともっと国際色が強く、甘美な旋律で人気の代表作「メリー・ウィドー」と最後の作品となった「ジュディッタ」の2作品からお聴きください。コダーイはハンガリーのケチケメート生まれ。ハンガリー民謡の研究者として名声を確立、その音楽語法を基に明晰で古典的な手法を用いながら独自の作風を作り上げました。無伴奏チェロ・ソナタは民族的音階を用いた超絶的な難曲として知られる名曲です。組曲「ハーリ・ヤーノシュ」は1926年に初演されたシングシュピール(大衆演劇)「5つの冒険」の音楽を翌年組曲としてまとめた作品で、主人公の愉快なほら吹き冒険譚を描いたコダーイの代表作として知られる名曲です。第3曲と第5曲にハンガリーの民族楽器ツィンバロンが使用されています。ガランタ舞曲は、少年時代を過ごしたガランタで聴いた民謡から靈感を得て1933年に作曲、ジプシー風の烈しい民族舞曲の間に美しい叙情的な曲調を挟んだ傑作です。最後はハンガリーの大家二人、バルトークとリストの作品です。ピアノ協奏曲第3番は死を覚悟したバルトークが妻のために書き上げた最後の作品で、軽快なピアノリズムと明晰な響き、第2楽章の清澄な美しさなど輝きに満ちた傑作です。「前奏曲」は、“人生は死への一連の前奏曲である”というラマルティーヌの「詩的冥想録」の一節から取られた交響詩の創始者リストの代表的名曲です。ごゆっくりお楽しみください。

イムレ・カールマーン (1882~1953):

喜歌劇“チャールダーシュの女王”～第2幕“踊りたい”

トマス・ハンブソン (Br) / エヴァ・リンド (S)

フランツ・レハール (1870~1948):

喜歌劇“メリー・ウィドー”～

第3幕“唇を閉じて(メリー・ウィドー・ワルツ)”

ブラシド・ドミンゴ (T) / ホセ・カレラス (T) / エヴァ・リンド (S) / アンドレア・ロスト (S)

第1幕“花は春に咲き誇り” ホセ・カレラス (T)

喜歌劇“ジュディッタ”～

第4幕“自分で自分が分からない(私の口づけは熱く)” アンドレア・ロスト (S)

マルチエツロ・ヴィオッティ指揮ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団

(1998.7.31 オーストリア、バート・イシュル、カイザー・ヴィラ(皇帝の館)でのLive)

ソルタン・コダーイ (1882~1967):

無伴奏チェロ・ソナタ Op.8～第1楽章から、第3楽章

ポール・トルトゥリエ (Vc)

(1972 NHKスタジオでの録音)

組曲“ハーリ・ヤーノシュ” — 1. 前奏曲、おとぎ話は始まる 2. ウィーンの音楽時計

3. 歌 4. 戦争とナポレオンの敗北 5. 間奏曲 6. 皇帝と廷臣たちの入場

キリル・パトレンコ指揮ライブツイヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

(2008.10.20 新ゲヴァントハウスでのLive)

*** 休憩 ***

ソルタン・コダーイ (1882~1967):

ガランタ舞曲

ヤーノシュ・フェレンチーク指揮ハンガリー国立交響楽団

(1979.11.27 東京文化会館大ホールでのLive)

ベラ・バルトーク (1881~1945):

ピアノ協奏曲第3番ホ長調 Sz.119～第1楽章から、第2楽章、第3楽章

アンドラーシュ・シフ (P)

サイモン・ラトル指揮バーミンガム市交響楽団

(1997.5.24 ケルン、フィルハーモニーホールでのLive)

フランツ・リスト (1811~1886):

交響詩“前奏曲(レ・フレリユード)”

マリス・ヤンソンス指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(2004.6.9 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)